

1 コンシューマー ID 基盤サービス “SELMID”

顧客IDの統合管理に役立つ各種機能を 一括提供しB2C事業者のDX推進を支援

伊藤忠テクノソリューションズ株式会社（以下、CTC）が2017年9月より提供しているコンシューマーID基盤サービス“SELMID（セルミッド）”は、複数のサービスを提供するB2C事業者が、サービス毎に存在する顧客IDを統合的に管理する上で必要になるさまざまな機能を一括して提供する。

B2C事業者のDXには顧客IDの 管理・統合が最も重要な要素

近年のデジタル化・オンライン化の進行に伴い、IDによって個々を識別しデジタル空間で取引を成立させる、また新しいサービスや体験を提供する動きが加速している。CTCは、このような状況下でDX（デジタルトランスフォーメーション）に取り組むB2C事業者、特に複数のサービス毎に顧客IDを管理している事業者にとって、顧客IDの管理や統合が最も重要な要素だと考えている。

「誰が、何を、という情報を活用する上でIDは不可欠です。IDをキーに分析を行いロイヤルカスタマー獲得につなげる、大手プラット

フォーマーのようにIDを中心とした顧客戦略がますます重要になっています。そこで我々はB2C事業者向けクラウド型ID基盤“SELMID”を提供し、『NO ID、NO DX』とアピールしています。」（花井氏）



伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
（左）西日本ビジネス開発チーム IDビジネス推進課 花井 杏夏氏
（右）西日本ビジネス開発チーム付 奥井 亮佑氏

Azure Active Directory B2Cをベースとする “SELMID”

SELMIDはB2C事業者向けであり、サービス利用者が自らサインアップしてIDを登録・管理するために必要な各種機能を提供する。高いセキュリティや可用性を実現しているマイクロソフトのIDaaS（Identity as a

Service）“Azure Active Directory B2C（以下、Azure AD B2C）”をベースとしており、基本的なID管理機能に加え、SNSとのID連携、また企業や学校などのシステムで運用するIDとの連携が可能だ。

さまざまな付加機能を テンプレートで提供し 構築・管理の負担を軽減

SELMIDは、Azure AD B2Cと日本で必要とされる各種機能を組み込んだテンプレートをセットにすることで、システム構築や管理の負担を大幅に軽減できるようにしたものだ。

まず本人確認のための機能が強化されており、利用者本人による同意の下、免許証やマイナンバーカード

多くの企業は①②の状態が多く、③④へのステップアップが必要

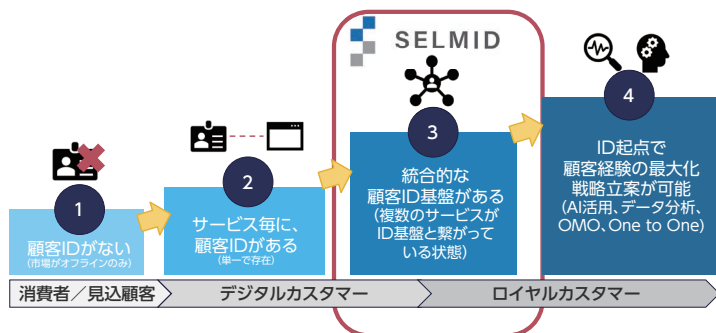


図1 DXに欠かせない顧客IDの統合管理

など公的証明書と連携した本人確認、さらには通信キャリアが保有する情報を使った本人確認が可能だ。また「普段と異なる挙動」を検知して不正アクセスを検知するなど、認証強度を向上させる機能も提供する。

国内で普及しているLINEとの連携を強化したほか、LINEへのプッシュ通知、メールシステムやチャットボットとの連携による自動通知といった、利用者とのコミュニケーションを促進する機能も強化されている。

SELMID=IDaaS+テンプレート

IDaaS (Azure AD B2C) にB2C事業者向け機能を組み込んだテンプレートをセットにしたもの

- 既存システムと簡単に連携し、SNS IDでログイン可能に(N対Nでの連携)
- 業務と連携した、個別SNSメッセージ配信を容易に実現
- 拡張機能として、決済連携、本人確認強化機能(携帯キャリアIDとの連携等)にも対応

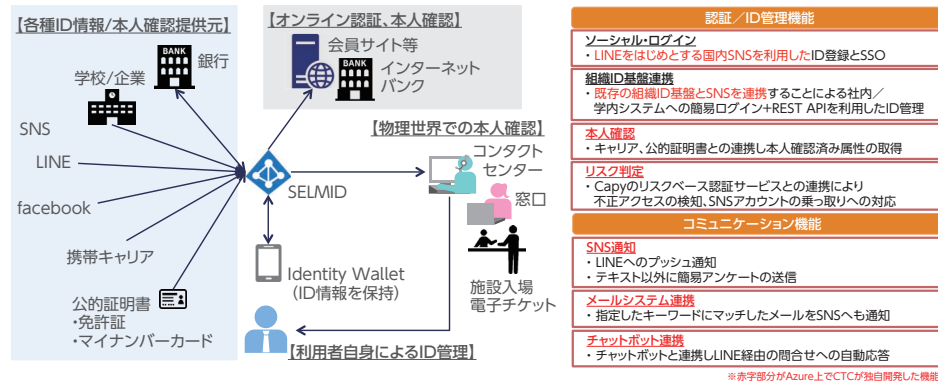


図2 SELMID概要

SELMIDの活用事例

複数サービスの顧客ID統合

書籍や雑誌、実写映画、アニメ、ゲーム、Webサービスなど、幅広い分野で多様なコンテンツやサービスを提供するKADOKAWAグループは、かつてサービス毎に発行・管理していた顧客IDを順次“KADOKAWAプレミアムメンバーズ (KADOKAWA-ID)”に統合している。点在していた顧客情報を統合することにより、グループ全体でより戦略的なサービス展開、顧客体験を創出していくことが狙いだ。短期間で大規模なID基盤を導入する必要があったことからSELMIDが活用されている。大規模な顧客ID統合・管理の代表的な事例となっている。

採用向けサイトのSNS連携

CTC自らもSELMIDを活用している。マイページ付きの新卒採用向けサイトを運営しているのだが、このマイページへのログインにSNSアカウントを使えるようにした。

「就職活動のため応募先毎にID

を登録・管理するのは大変な作業ですが、SNSアカウントならIDを忘れる心配もありません。“LINE公式アカウント”を活用した学生とのコミュニケーションにも力を入れており、サイトへの登録者は例年より増加しました。」(花井氏)

登録IDの数は数千と、SELMIDの活用例としては比較的小規模な事例と言える。

保証されたID情報のポータビリティにより高い利便性を提供する実証実験

CTCは慶應義塾大学の協力を得て、Japan Digital Design 株式会社、株式会社ジェーシービー、西日本電信電話株式会社、BlockBase 株式会社と共同で、次世代デジタルアイデンティティ基盤の実証実験を行っている。デジタル証明書技術を使い、学生IDと連携した在学証明書や卒業見込証明書などをスマートフォンアプリへ発行するID基盤を開発・運用するというものだ。

転校や編入に伴う大学間の情報連携や、採用企業に対する成績証明書

の提供のような民間企業との連携、さらには決済システム、商用システムと連携し学生割引を適用するといったことも視野に入れている。

豊富な連携ノウハウでカスタマイズし多様なニーズに対応

CTCが持つ豊富なノウハウを活かした導入支援やカスタマイズも、スクラッチ開発によるシステムや一般的なIDaaSに対する大きな強みとなっている。この強みを活かしSELMIDの提供を拡大したいとして、奥井氏は次のように述べている。

「顧客IDの統合・管理が主なターゲットですが、開発・運用の負担を軽減するためSELMIDの一部の機能だけを活用する例もあります。たとえば多要素認証やLINEとの連携が容易といった理由により、金融機関からのお問い合わせも多数いただいています。蓄積してきたノウハウを活かし、今後も幅広いニーズに対応していく考えです。」

●問い合わせ先●

西日本ビジネス開発チーム
selmid@ctc-g.co.jp